

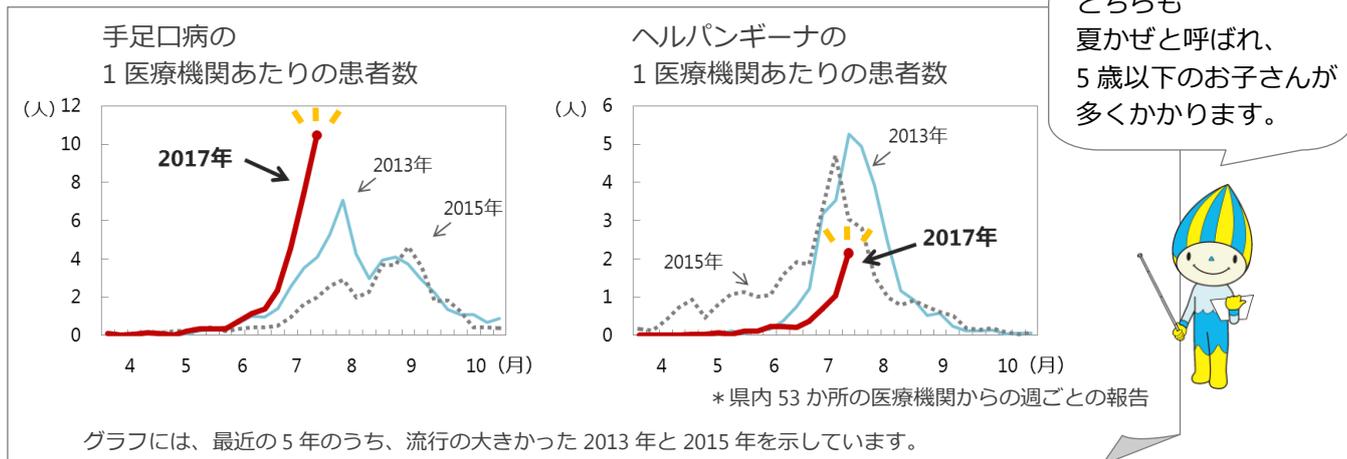
ぎふ感染症かわら版

平成 29 年 8 月 4 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



手足口病とヘルパンギーナに注意しましょう！

県内で、手足口病の患者が急増しており、この 5 年間で最も大きな流行となっています。また、ヘルパンギーナの患者も増加しています。小さいお子さんのいる家庭や保育所などではとくに注意が必要です。



どんな病気？

手足口病とヘルパンギーナは、コクサッキーウイルスなどのエンテロウイルスに分類されるいくつかのウイルスにより起こります。

手足口病では、手のひら、足の裏や甲、口の中などに小さな水疱（水ぶくれ）ができ、ヘルパンギーナでは、高熱が出て、のどが赤くなり口の中に水疱ができます。

多くの場合、数日で自然に治りますが、まれに髄膜炎などを起こすことがあります。

どうやってうつるの？ 予防方法は？

エンテロウイルスは、感染した人の唾液や便の中に出てくるため、これらのウイルスが、手指を介した接触感染や、咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染によって鼻や口に運ばれることで感染します。

予防には、石けんを使った手洗いが大切です。

とくに便の中へのウイルス排せつは、症状が治まった後も 2~4 週間と長く続き、周りの人への感染源となるので注意が必要です。



トイレの後の手洗いはとても大切です！

お子さんのおむつの取扱いにも注意し、口に触れるおもちゃは、次亜塩素酸ナトリウムなどで消毒しましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

